


(シラバス No.11) (専門科目 特別講究 I)

科目名	特別講究 I (学校臨床社会学) 英語名 : Special Seminar on Clinical Sociology of the School	必修/選択	選択必修	
		単位数	2 単位	
		担当教員	今津 孝次郎	
【授業概要】 アメリカ・シカゴ学派が創始した「臨床社会学」を学校に適用した「学校臨床社会学」の方法について、①臨床、②臨床社会学、③学校臨床社会学、④介入参画法の各観点から学修する。そして、以上四つの観点から現代学校現場での具体的諸問題を洗い出し、以下の事例研究をおこなう。a 小学校の外国人児童の学力保障、b 中学校のいじめ防止、c ケータイのリスクに対する高校生のエンパワーメント、の三事例である。これらの事例分析を参考にしながら、受講生各自が直面する具体的問題について、問題設定の仕方、問題解明の諸観点、そして問題解決に向けた実践立案を「介入参画法」に沿って総合的に検討し、レポートにまとめる。				
【キーワード】 臨床、臨床社会学、学校組織文化、学校改善、介入参画法、教師の資質・能力				
【授業の到達目標】 1. 学校教育上の諸問題を学校臨床社会学の視点からの確に位置づけることができる。 2. 種々の調査手法を駆使して客観的に解明し、介入参画法の手順に従って、その解決策を探究することができる。 3. 探究の結果に基づき、問題解決にとって一定の処方箋を提言することができる。				
【教育の方法】 スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】				
【授業計画】				
回	内 容			
1	本授業の目的と進め方、到達目標などの概要についてのオリエンテーション			
2	臨床の意味について、心理学・哲学・教育学の諸分野から検討する			
3	臨床社会学の成立と意義、その社会的背景について、アメリカ・シカゴ学派の取り組みから学ぶ			
4	学校臨床社会学の狙いと方法など、その構成全体について明らかにしながら、学校教育問題の捉え方を見直す			
5	実践的研究法としての「介入参画法」について理解し、他の方法と比較検討する			
6	事例1「小学校の外国人児童の学力保障」から実践的研究法を理解する			
7	事例1「小学校の外国人児童の学力保障」に関連する学校教育問題を検討する			
8	事例2「中学校のいじめ防止」から実践的研究法を理解する			
9	事例2「中学校のいじめ防止」に関連する学校教育問題を検討する			
10	事例3「ケータイのリスクに関する高校生のエンパワーメント」から実践的研究法を理解する			
11	事例3「ケータイのリスクに関する高校生のエンパワーメント」に関連する学校教育問題を検討する			
12	事例1～3以外の学校教育問題を事例4として取り上げて、その実践的研究を試行する			
13	事例4に関する学校臨床社会学的検討をおこなう			
14	事例4に関する教育諸科学的検討をおこなう			
15	学校臨床社会学による学校教育問題の解明と解決に関して、総合的な検証をおこなう			
試験				
【履修にあたっての準備・履修上の注意点】 中村雄二郎『臨床の知とは何か』岩波新書を参考にしながら、「臨床」についてさまざまな研究分野がいかにか捉えてきたか、基礎知識を復習しておく。				

<p>【スクーリングでの学修内容】</p> <p>スクーリングは、学修の初期に、授業の目的や学修の概要を知り、この科目を通じて何を指すかを学生と教員が相互に確認するために行う。さらに、学修の終期に、学修のまとめとしてもスクーリングを行う。学生が各職業現場で直面する問題や課題を毎回のように交流し、それらを研究対象としていかに設定し、どのように研究展開していくか、さらには研究成果からいかなる問題解決方策を具体化できるかについて集団討議を通して多角的に検討し、各自がレポートを作成する。</p> <p>学修の初期のスクーリングでは、事前学習として、テキストに基づき、臨床社会学または学校臨床社会学の視点を理解する。事後学習として、各自の職業現場経験を対象化して、そこでの諸問題を客観的に認識した内容について検討を行う。</p> <p>学修の終期のスクーリングでは、事前学習として、レポートの構成について検討し、学校臨床社会学の一連の視点・技法が学修できているかについて確認する。事後学習として、スクーリングでの学習に基づきレポート内容の修正を施す。</p> <p>スクーリングはこの2つの時期を含み、合計4コマ6時間以上をめぐり行う。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>合否については、学修成果の実践への生かし方についての発表（25%）、レポート1本（25%）、科目修得試験（50%）で評価する。</p>
<p>【テキスト】</p> <p>今津孝次郎『学校臨床社会学－教育問題の解明と解決のために』新曜社、2012年 中村雄二郎『臨床の知とは何か』岩波新書、1992年</p>
<p>【参考図書】</p> <p>酒井朗編著『新訂 学校臨床社会学』放送大学教育振興会、2007年、 今津孝次郎『教師が育つ条件』岩波新書、2012年 今津孝次郎『新版 変動社会の教師教育』名古屋大学出版会、2017年</p>
<p>【教員メッセージ】</p> <p>具体から抽象へ、個別から一般へという思考回路を常に取りるように習慣化しましょう。</p>
<p>【備考】</p> <p>特記事項なし</p>